

年頭所感

公益社団法人 日本防犯設備協会 常任理事 **伊藤 英明**
(三菱電機株式会社 トータルセキュリティ事業推進部)



謹んで、新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には日頃より当協会の活動へのご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私は昨年6月より前任の松岡理事の後任として常任理事及び運営幹事会の副代表幹事という大役を拝命致しました。会員及び事務局の皆様にご支援を頂き、この半年間を無事に勤めさせて頂きました。今年も引き続き皆様のお力添えを頂きながら、協会活動や幹事会運営に尽力する所存です。ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、昨年は当協会の設立30周年という節目にあたり、創立30周年記念祝賀会も本協会の発展にご尽力頂いた功労者の方々への表彰式を含め、ご臨席頂いた各団体や関連企業様より多くのお祝いのお言葉を頂戴して盛大に式典を終了することができました。これも当協会を日頃より支えて頂いた団体や企業の皆様のご苦勞の賜物と思い、改めまして御礼を申し上げます。

さて、昨年1年間の出来事を振り返ってみますと、まず思い出されるのは4月に発生した熊本地震です。東日本大震災から5年という節目の年に大きな揺れが熊本県と大分県を襲い、多くの建物の崩壊や多くの人が犠牲となる甚大な被害が生じました。そこでは残念なことに、火事場泥棒と言える窃盗事件も多発し、緊急的に防犯対策を講じる必要性も発生するなど、当協会からも防犯カメラ設置の支援をさせて頂きました。世の中の安全・安心を守るためには、防災と防犯を常に意識して連携させる備えが必要ということを改めて痛感させられました。

また、7月に発生した神奈川県相模原市の養護施設において、刃物を持った男による殺傷事件が起こり多くの死傷者を出しました。この事件は海外でも取り上げられるほどのショッキングな事件となりました。以前、同施設に勤務していた看護師の犯行でしたが、犯行の予兆を行政側も掴んでいたにも関わらず、施設の警備の盲点を突いた計画的な犯行でした。この事件では行政と地域との連携の重要性を改めて認識しました。また、川崎市の老人ホームで明らかになった転落死事件や横浜市の病院で続く異物混入事件など、社会的弱者を狙った犯罪が目立ち、高齢化社会を迎える我が国においては誰もが

安心して暮らせる基盤の再構築が課題となっています。

急拡大するネット社会に絡んだ問題も目につきました。1月には防犯カメラののぞき見サイトがマスコミで大きく取り上げられ、当協会もメールマガジンで注意喚起するとともに事故防止に向けてRBSS委員会内にワーキングを設置し「防犯カメラシステムネットワーク構築ガイドⅡ」を作成しています。

一方、海外に目を向けてみますと、バングラデシュの首都ダッカにおいて武装集団による襲撃、人質立てこもり事件が発生しました。残念な事ではありますが、日本人を含む多くの人が犠牲となり、テロの脅威を改めて思い知る事件でした。

しかし、世の中は悪いことばかりではありませんでした。世界的なテロ続発の中で開催された「伊勢・志摩サミット」や「リオオリンピック・パラリンピック」では関係機関の入念な事前準備と対策が実って成功裏に終わりました。この成功の背景には、ドローンや画像認識処理などの最新の防犯システムを駆使した警備運営体制を指向したのも周知のところですが。

今年は昨年11月に行われた米国の次期大統領選挙でドナルド・トランプ氏が大統領に就任する年であり、世界が大きく変化する兆しを感じられます。また、人工知能(AI)やIoT(インターネット利用)の応用分野が益々拡大して洗練された情報通信技術(ICT)が進化することも予想されています。日本は2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて社会インフラを整備し、世界一安全安心な社会を目指して更に変化しようとしています。

当協会では大きな変化の波の中で社会繁栄の礎となるべく、防犯設備士や総合防犯設備士の資格認定制度、RBSS(優良防犯機器)認定制度、各分野別の委員会活動を中心に、より安全で安心な社会を目指して行きます。その活動にむけ、会員の皆様の本年の更なるご支援、ご協力をお願いするとともに、皆様のご多幸、ご健勝ならびに関係団体及び関係企業様の益々のご発展を祈念して、念頭の挨拶とさせていただきます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。